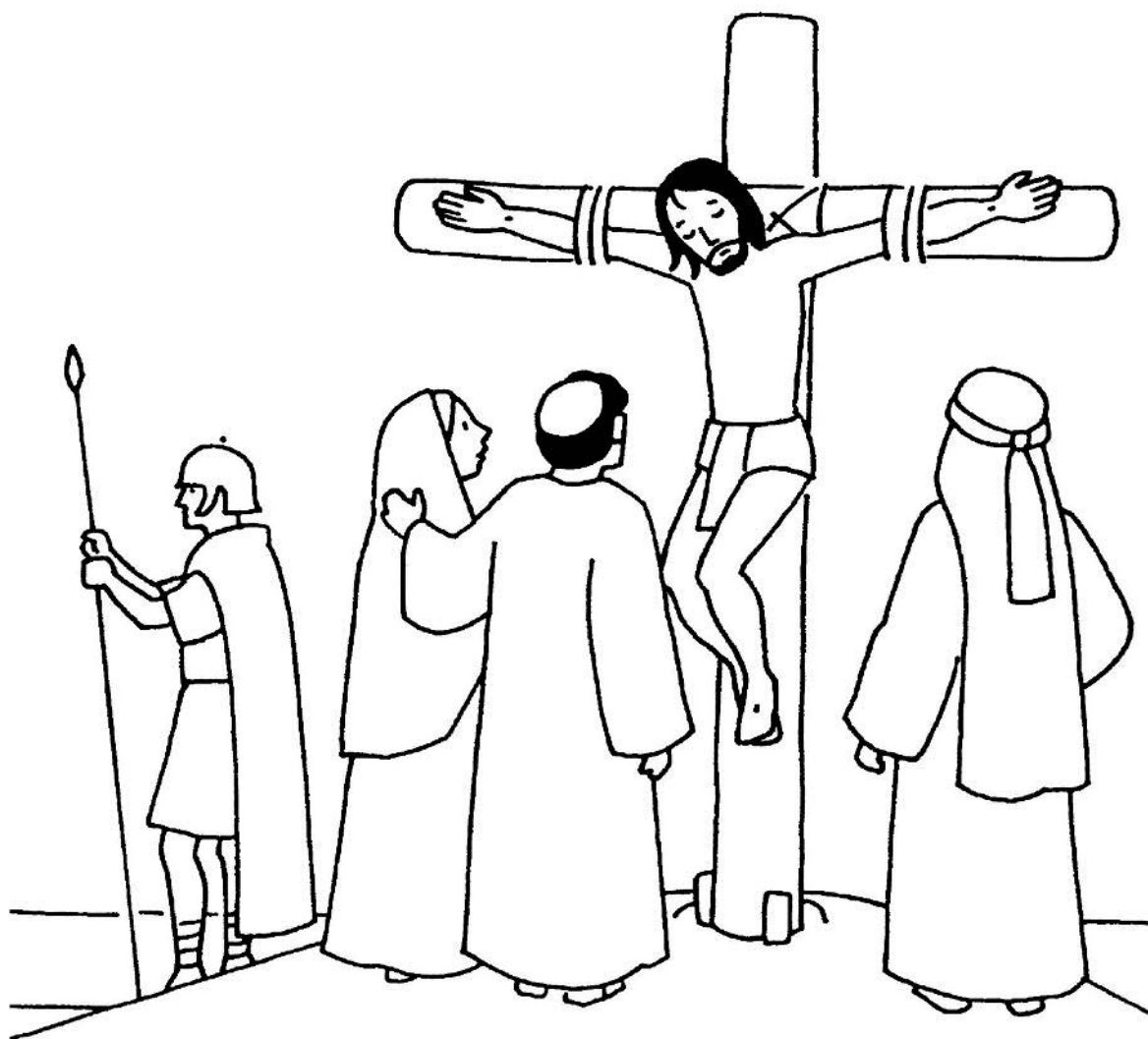


じゅうじか みちゆき
十字架の道行



せいしょ もくそう
「聖書により黙想」

『新共同訳聖書』、カルメロ神父『祈りの友』、
カトリック中央協議会『十字架の道行』より
ルビ付き

十字架のしるし

先 ✦ 父と子と聖霊のみ名によつて。

答 アーメン。

初めの祈り

先 聖なる父よ、聖母マリアは十字架のもとに立ち、御子イエスと苦しみをもにしました。教会が、聖母とともに御子の苦しみに結ばれて、その復活にもあずかることができますように。

私たちの主イエス・キリストによつて。

答 アーメン。

初めの朗読 (ルカ24・25~27)

そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのでないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

第一留 イエス、死刑を宣告される

預言 (イザヤ53・8)

捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の

誰が思い巡らしたであろうか、私の民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり、命ある者の地から断たれたことを。

福音の事実 (ヨハネ19・12~16)

そこで、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。」ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。それは逾越祭の準備の日の、正午ごろであつた。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うと、彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につける。」ピラトが、「あなたたちの王を私が十字架につけるのか」と言うと、祭司長たちは、「私たちには、皇帝のほかには王はありません」と答えた。そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。こうして、彼らはイエスを引き取った。

福音の解説 (ローマ3・23~26)

人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によ

って信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、
今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。
このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたの
は、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる
者を義となさるためです。

第二留 イエス、十字架をになう

預言 (イザヤ53・4)

彼が担ったのは私たちの病、彼が負ったのは私たちの痛み
であったのに私たちは思っていた神の手にかかり、打たれたか
ら彼は苦しんでいるのだ、と。

福音の事実 (ヨハネ19・17)

イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、
すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。

福音の解説 (ヘブライ人10・5~110)

それで、キリストは世に來られたときに、次のように言われた
のです。「あなたは、いけにえや献げ物を望まず、むしろ、私の
ために体を備えてくださいました。あなたは、焼き尽くす献げ物
や罪を贖うためのいけにえを好まれませんでした。そこで、私
は言いました。『御覧ください。私は來ました。聖書の巻物に

私について書いてあるとおり、神よ、御心を行うために。』
この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられ
たことにより、私たちは聖なる者とされたのです。

第三留 イエス、初めて倒れる

預言 (イザヤ53・6)

私たちは羊の群れ、道を誤り、それぞれの方角に向かつて
行った。その私たちの罪をすべて主は彼に負わせられた。

福音の事実 (ルカ9・23~26)

それから、イエスは皆に言われた。「私について來たい者は、
自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、私に従いなさい。
自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、私のために
命を失う者は、それを救うのである。人は、たとえ全世界を手
に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得
があろうか。私と私の言葉を恥じる者は、人の子も、自分と父
と聖なる天使たちとの栄光に輝いて來るときに、その者を恥じ
る。

福音の解説 (ヘブライ人5・7~9)

キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声
をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、

祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となりました。

第四留 イエス、母マリアに出会う

預言 (哀歌 2・13,19)

おとめエルサレムよ、あなたを何にたとえ、何の証しとしよう。おとめシオンよ、あなたを何になぞらえて慰めよう。海のように深い痛手を負ったあなたを誰が癒せよう。立て、宵の初めに。夜を徹して嘆きの声をあげるために。主の御前に出て水のようにあなたの心を注ぎ出せ。両手を上げて命乞いをせよ、あなたの幼子らのために。彼らはどの街角でも飢えに衰えてゆく。

福音の事実 (マルコ 10・32-34)

一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。「今、私たちはエルサレムへ上

って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」

福音の解説 (1ペトロ 4・12-14,16,19)

愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜ばなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです。あなたがたはキリストの名のために非難されるなら、幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、決して恥じてはなりません。むしろ、キリスト者の名で呼ばれることで、神をあがめなさい。

だから、神の御心によって苦しみを受ける人は、善い行いをし続けて、真実であられる創造主に自分の魂をゆだねなさい。

第五留 イエス、キレネのシモンの助けを受ける

預言 (イザヤ 53・3)

ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに對する愛を示されました。それで今や、私たちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

それだけでなく、私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。

第七留 イエス、再び倒れる

預言 (イザヤ53・10)

病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ、彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは彼の手によって成し遂げられる。

福音の事実 (ヨハネ12・23〜28)

イエスはこうお答えになった。「人の子が栄光を受ける時が来た。はつきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、そ

れを保って永遠の命に至る。私に仕えようとする者は、私に従え。そうすれば、私のいるところに、私に仕える者もいることになる。私に仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。」「今、私は心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、私をこの時から救ってください』と言おうか。しかし、私はまさにこの時のために来たのだ。父よ、御名の栄光を現してください。』すると、天から声が聞こえた。「私は既に栄光を現した。再び栄光を現そう。』」

福音の解説 (コロサイ人1・21〜23)

あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって、心の中で神に敵対していました。しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、私パウロは、それに仕える者とされました。

第八留 イエス、エルサレムの婦人を慰める

預言 (イザヤ49・15)

女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産

んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも、私があなたを忘れることは決してない。

福音の事実 (ルカ23・27～29:31)

民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、イエスに従った。イエスは婦人たちの方を振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち、私のために泣くな。むしろ、自分と自分の子供たちのために泣け。人々が、『子を産めない女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来る。『生の木』さえこうされるのなら、『枯れた木』はいつたいどうなるのだろうか。」

福音の解説 (ヘブライ人3・7～9:12～13)

聖霊がこう言われるとおりです。「今日、あなたたちが神の声を聞くなら、荒野で試練を受けたころ、神に反抗したときのように、心をかたくなにしてはならない。荒野であなたたちの先祖は私を試み、験し、四十年の間私の業を見た。だから、わたしは、その時代の者たちに対して憤ってこう言った。『彼らはいつも心が迷っており、私の道を認めなかった。』」

兄弟たち、あなたがたのうちに、信仰のない悪い心を抱いて、生ける神から離れてしまう者がないように注意しなさい。あなたがたのうちだれ一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、「今日」という日のうちに、日々励まし合いなさい。

第九留 イエス、三度倒れる

預言 (イザヤ53・2)

乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のようにこの人は主に育った。見るべき面影はなく輝かしい風格も、好ましい容姿もない。

福音の事実 (ルカ22・41～42:44:6)

そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。「父よ、御心なら、この杯を私から取りのけてください。しかし、私の願いではなく、御心のままに行ってください。」

イエスは苦しきもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。

イエスは言われた。「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい。」

福音の解説 (1コリント人1・18:23～25)

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、私たち救われる者には神の力です。

私たちは、十字架につけられたキリストを宣傳しています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣傳しているのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

第十留 イエス、衣をはがされる

預言 (イザヤ53・7)

苦役を課せられて、かがみ込み彼は口を開かなかった。ほふり場に引かれる小羊のように毛を切る者の前に物を言わない羊のように彼は口を開かなかった。

福音の事実 (ヨハネ19・23～24)

兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、「彼らは私の服を分け合い、

私の衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。

福音の解説 (エフェソ人1・5～7:9～10)

イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままにもってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、私たちがたてるためです。私たちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。秘められた計画を私たちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。

第十一留 イエス、十字架につけられる

預言 (イザヤ53・5)

彼が刺し貫かれたのは私たちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは私たちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって私たちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、私たちはいやされた。

福音の事実 (ルカ23・33〜36)

「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのかわからないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱した。

福音の解説 (1ペトロ2・21〜24)

あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。「この方は、罪を犯したことがなく、その口には偽りがなかった。」ののしられてもののしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。そして、十字架にかかって、自らその身に私たちの罪を担ってくださいました。私たちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。

第十二留 イエス、十字架上で息を引き取る

預言 (イザヤ53・12)

それゆえ、私は多くの人を彼の取り分とし、彼は戦利品としておびたしい人を受け取る。彼が自らをなげうち、死んで罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人の過ちを担い背いた者のために執り成しをしたのはこの人であった。

福音の事実 (マルコ15・33〜36)

昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになつたのですか」という意味である。そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見てみよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真つ二つに裂けた。百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

福音の解説 (ライリビ人2:5~11)

互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

第十三留 イエス、十字架から降ろされる

預言 (イザヤ53:11)

彼は自らの苦しみの実りを見、それを知って満足する。私

の僕は、多くの人が正しい者とされるために彼らの罪を自ら負った。

福音の事実 (ヨハネ19:38~40)

その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れ、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエス

の遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願ひ出た。ピラトが許したので、ヨセフは行って遺体を取り降ろした。そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。

福音の解説 (黙示録2:10~12)

私は、天で大きな声が次のように言うのを、聞いた。「今や、我々の神の救いと力と支配が現れた。神のメシアの権威が現れた。我々の兄弟たちを告発する者、昼も夜も我々の神の御前で彼らを告発する者が、投げ落とされたからである。兄弟たちは、小羊の血と自分たちの証しの言葉とで、彼に打ち勝った。彼らは、死に至るまで命を惜しまなかった。このゆえに、もろもろの天と、その中に住む者たちよ、喜べ。地と海とは不幸である。悪魔は怒りに燃えて、お前たちのところへ降って行った。残された時が少ないのを知ったからである。」

第十四留 イエス、墓に葬られる

預言 (イザヤ53:9)

その後、イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れ、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエス

かれ 不法を働かず、その口に偽りもなかったのにその墓は神に逆らう者と共にされ、富める者と共に葬られた。

福音の事実 (マタイ 27・59～61)

ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。マグダラのマリアともう一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

福音の解説 (コロサイ人 1・12～15; 17～20)

光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかるようにしてください。御父は、私たちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。私たちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。

御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。神は、御子のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿

らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

第十五留 イエス、復活する

預言 (イザヤ 53・10)

主は聖なる御腕の力を国々の民の目にあらわにされた。地の果てまで、すべての人が私たちの神の救いを仰ぐ。

福音の事実 (マルコ 16・1～6)

安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。彼女は、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。

福音の解説 (黙示録 22・20)

以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、私はすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください。

結びの祈り

先 じっくりしみ深い父よ、今、十字架の道をたどった私たちは、あなたの愛の大きさを知ることができました。私たちが日々の生活のなかで、主キリストの生涯にならい、あなたと人々への愛をあかしして、永遠の復活の喜びにいたることができましますように。

私たちの主イエス・キリストによって。

答 アーメン。

「主の祈り」、「アヴェ・マリアの祈り」、「栄唱」

祝福

先 全能の神、父と子と聖霊が私たちを祝福し、すべての悪から守り、永遠のいのちに導いてくださいますように。

答 アーメン。

(司祭または助祭が司式する場合)

司 主は皆さんとともに。

答 また司祭とともに。

司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように。

答 アーメン。

司 十字架の道行を終わります。行きましよう、主の平和のうちに。

答 神に感謝。